

第182回 取引先企業景気動向調査

2023年 7 - 9月 実績

2023年 10 - 12月 見通し

 瀬戸信用金庫
総合企画部

＜ 調査の概要 ＞

- 調査期間 2023年7～9月を対象に9月上旬に実施
- 調査対象先 303社
- 調査対象地域 瀬戸・尾張旭地区および名古屋地区
- 分析方法 「増加したとする企業割合」と「減少したとする企業割合」の差(DI)を中心に分析した
 ※DIとは、業況を判断するための指数で、＜良い(やや良い)と答えた割合＞から＜悪い(やや悪い)と答えた割合＞を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて業況がどの方向に向きつつあるかの判断を指数化したもの

● 調査企業の業種構成

《瀬戸・尾張旭地区》

企業数 (社)	陶磁器製造業						珪砂 製造業	建築・土木・ 生コン製造業	螺子 製造業	和飲食器 卸売業	電設資材 卸売業	合計
	ノベルティ	洋飲食器	タイル	電磁器	ファインセラミックス	和飲食器						
	16	7	7	22	13	21	10	18	17	21	18	170

《名古屋地区》

企業数 (社)	製造業			卸売業			建設業	合計
	繊維製品	機械・部品	紙加工品	鋼材・伸銅品	建築材料	家具・文具		
	11	37	14	20	14	8	29	133

● 天気図の見方

好調 ←  → 低調

景気動向は、1971年(昭和46年)から調査を開始し、現在の調査方法は2006年(第112回 1～3月期)より開始しております。

■ 瀬戸・尾張旭地区 【業種別の業況天気図】

業種		2021年 9月	12月	2022年 3月	6月	9月	12月	2023年 3月	6月	9月	見通し 12月
陶磁器製造業	ノベルティ	 ▲41.2		 ▲35.3		 11.8		 ▲5.9		 18.8	
	洋飲食器	 ▲14.3		 ▲14.3		 ▲14.3		 ▲28.6		 ▲14.3	
	タイル	 0.0		 ▲14.3		 ▲14.3		 0.0		 ▲14.3	
	電磁器	 ▲19.0		 ▲14.3		 ▲4.8		 ▲40.9		 ▲27.3	
	ファインセラミックス	 7.7		 0.0		 7.7		 ▲7.7		 ▲15.4	
	和飲食器	 ▲15.0		 ▲28.6		 ▲19.0		 ▲9.5		 ▲23.8	
陶磁器製造業合計		 ▲16.5	 ▲10.5	 ▲19.8	 ▲11.8	 ▲4.7	 ▲6.9	 ▲17.2	 ▲12.5	 ▲14.0	 ▲7.0
珪砂製造業		 ▲10.0		 ▲11.1		 ▲11.1		 ▲10.0		 10.0	
建築・土木・生コン製造業		 ▲15.8		 ▲21.1		 ▲5.6		 ▲16.7		 5.6	
螺子製造業		 ▲11.8		 ▲29.4		 ▲23.5		 ▲5.9		 5.9	
和飲食器卸売業		 ▲61.9		 ▲47.6		 ▲26.3		 ▲5.0		 14.3	
電設資材卸売業		 ▲26.3		 ▲26.3		 ▲31.6	 5.6			 0.0	

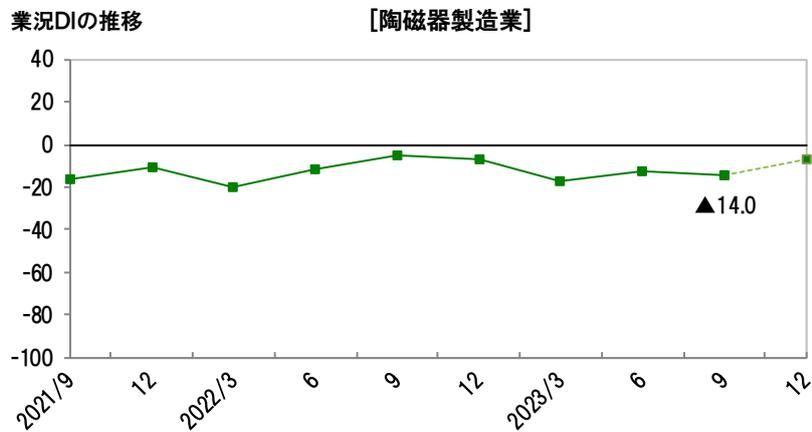
名古屋地区 【業種別の業況天気図】

業種	2021年 9月	12月	2022年 3月	6月	9月	12月	2023年 3月	6月	9月	見通し 12月
繊維製品製造業	 ▲50.0		 ▲9.1		 ▲18.2		 ▲18.2		 ▲16.7	
機械部品製造業	 ▲13.5		 13.5		 16.2		 8.1		 10.8	
紙加工品製造業	 ▲20.0		 ▲20.0		 ▲33.3		 ▲14.3		 ▲15.4	
鋼材・伸銅品卸売業	 0.0		 5.0		 15.0		 10.0		 ▲10.0	
建築材料卸売業	 ▲50.0		 ▲21.4		 0.0		 ▲14.3		 ▲7.1	
家具・文具卸売業	 ▲33.3		 ▲12.5		 0.0		 ▲12.5		 ▲12.5	
建設業	 ▲37.9		 ▲17.2		 ▲13.8		 ▲17.2		 0.0	

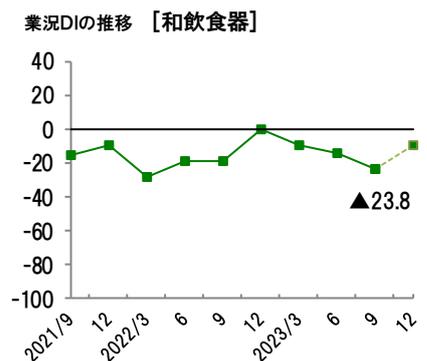
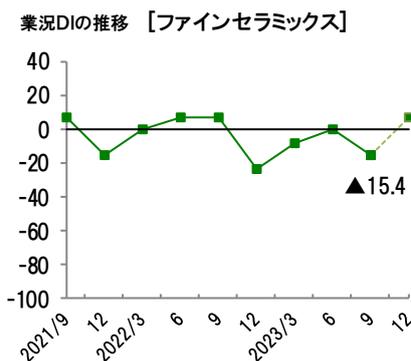
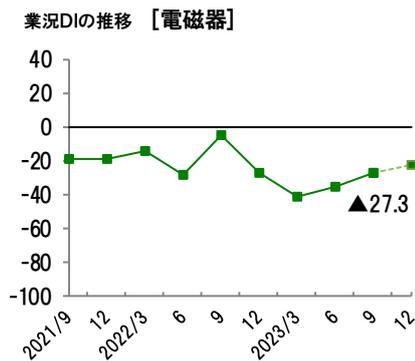
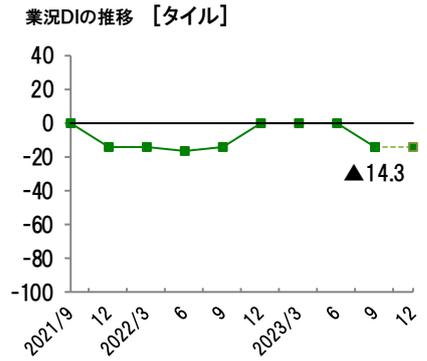
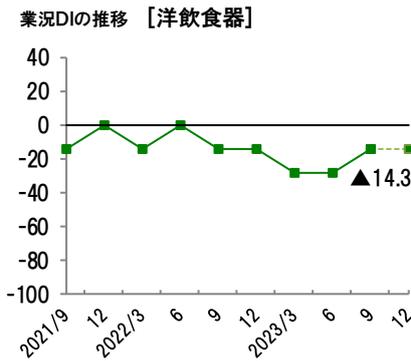
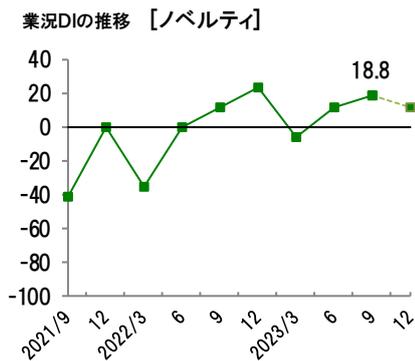
■ 瀬戸・尾張旭地区

< 陶磁器製造業 >

業種	2023年7-9月(今回)業況	2023年10-12月の見通し
陶磁器製造業全体	3業種において悪化の動きが見られたことから、全体の業況感は小幅に後退し、前回調査に続きマイナス圏で推移した。	改善見通し
ノベルティ	拡大基調、プラス圏で推移	プラス圏で後退見通し
洋飲食器	改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移	同水準の見通し
タイル	悪化傾向、マイナス圏に落ち込む	同水準の見通し
電磁器	改善傾向ながら、前回調査に続き低水準で推移	改善見通し
ファインセラミックス	悪化傾向、マイナス圏に落ち込む	改善見通し
和飲食器	悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移	改善見通し



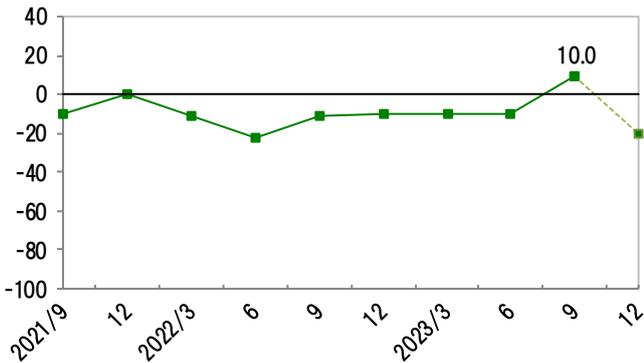
< 陶磁器製造業の業種別DI >



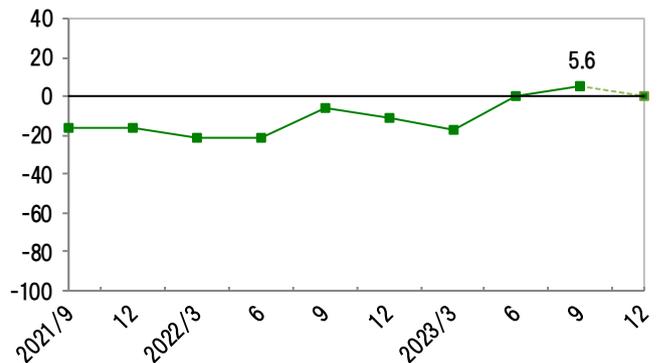
< その他製造業 >

業種	2023年7-9月（今回）業況		2023年10-12月の見通し	
珪砂		改善傾向、プラス圏に回復		悪化見通し
建築・土木・生コン		拡大基調、プラス圏で推移		プラス圏で後退見通し
螺子		大幅に改善、プラス圏に回復		プラス圏で後退見通し

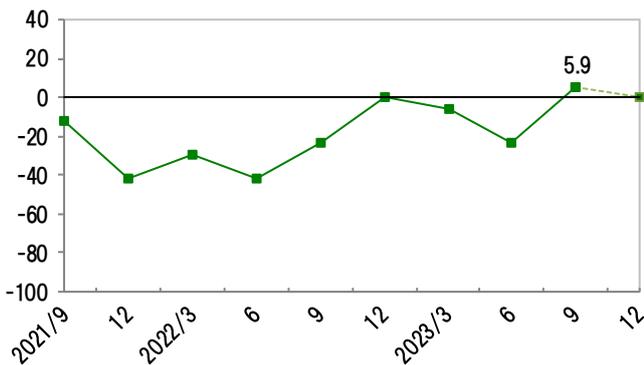
業況DIの推移 [珪砂製造業]



業況DIの推移 [建築・土木・生コン製造業]



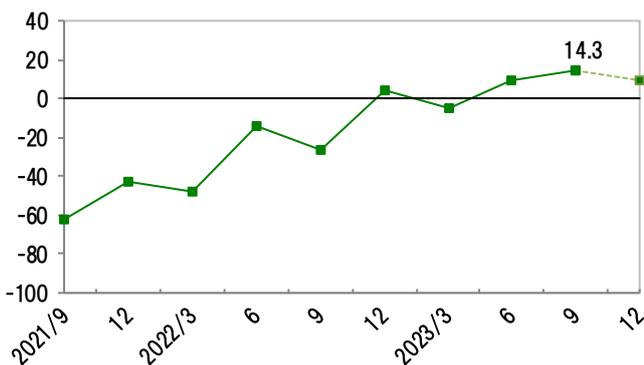
業況DIの推移 [螺子製造業]



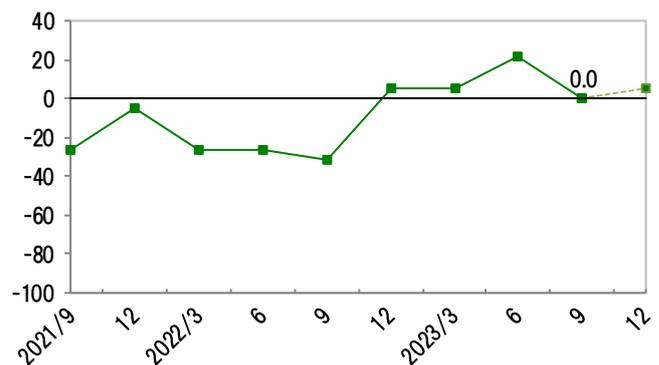
< その他卸売業 >

業種	2023年7-9月（今回）業況		2023年10-12月の見通し	
和飲食器		拡大基調、プラス圏で推移		プラス圏で後退見通し
電設資材		悪化傾向ながら、前回調査に続きプラス圏で推移		プラス圏で改善見通し

業況DIの推移 [和飲食器卸売業]



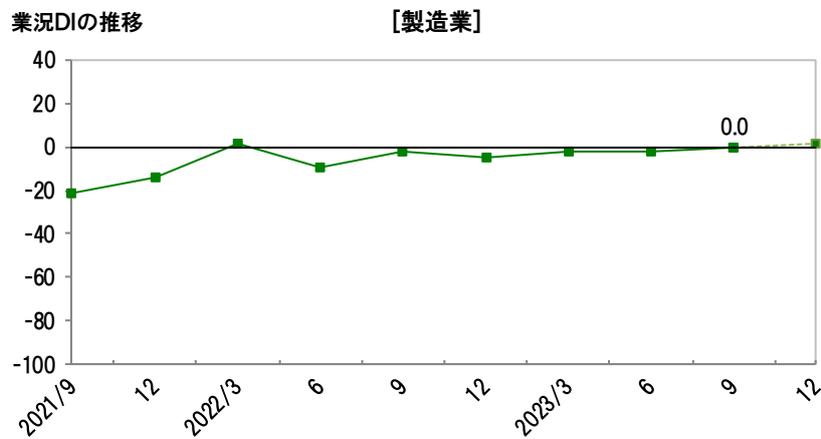
業況DIの推移 [電設資材卸売業]



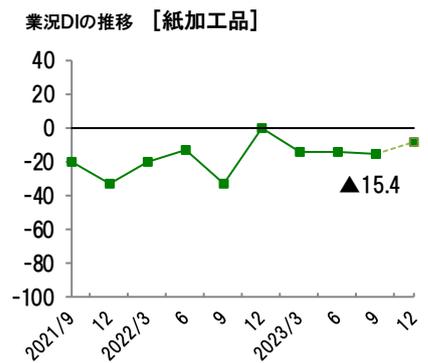
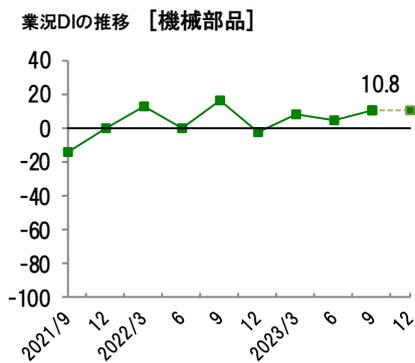
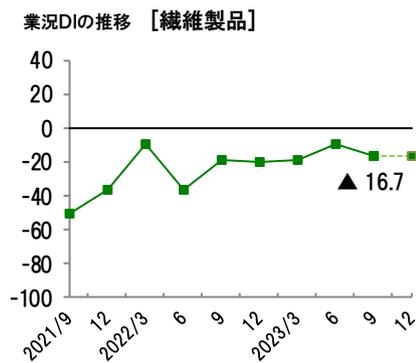
名古屋地区

< 製造業 >

業種	2023年7-9月（今回）業況	2023年10-12月の見通し
製造業全体	1業種で持ち直しの動きが見られたことから、全体の業況感はずかに改善し、前回調査のマイナス圏からプラス圏に回復した。	改善見通し
繊維製品	悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移	同水準の見通し
機械部品	拡大傾向、プラス圏で推移	同水準の見通し
紙加工品	悪化傾向、マイナス圏で推移	改善見通し

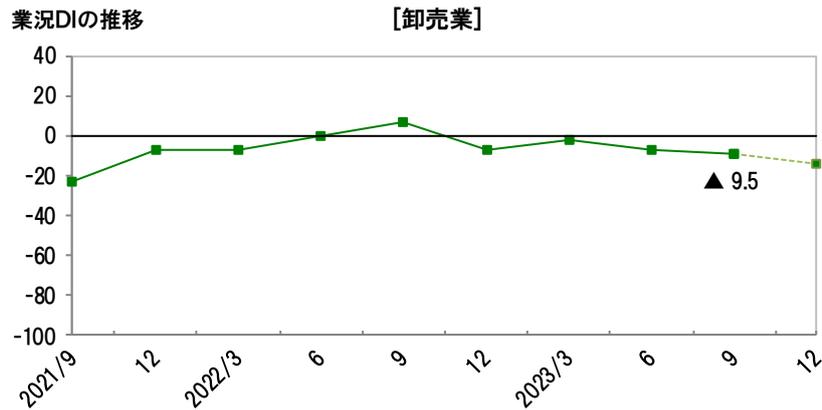


< 製造業の業種別DI >

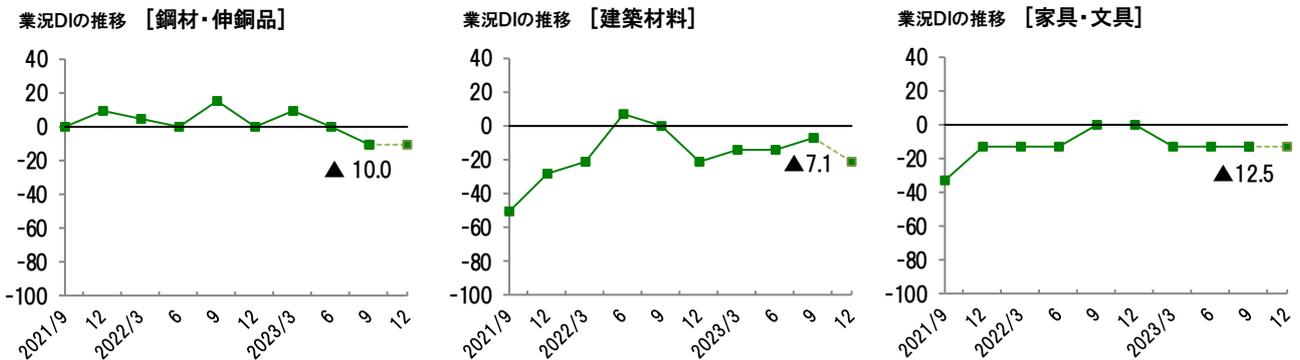


< 卸売業 >

業種	2023年7-9月（今回）業況	2023年10-12月の見通し
卸売業全体	☁️ 1業種において悪化傾向が見られたことから、全体の業況感も後退し、前回調査に続きマイナス圏で推移した。	☁️ 悪化見通し
鋼材・伸銅品	☁️ 悪化傾向、マイナス圏に落ち込む	☁️ 同水準の見通し
建築材料	☁️ 改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移	☁️ 悪化見通し
家具・文具	☁️ マイナス圏で横ばい推移	☁️ 同水準の見通し

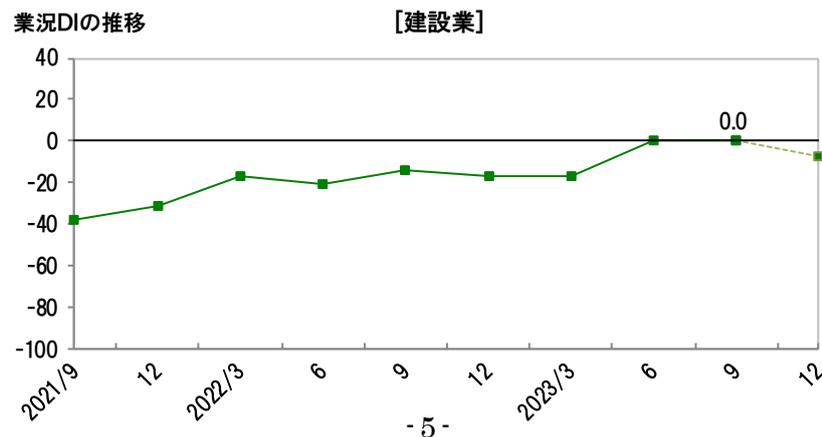


< 卸売業の業種別DI >



< 建設業 >

業種	2023年7-9月（今回）業況	2023年10-12月の見通し
建設業	☁️ プラス圏で横ばい推移	☁️ 悪化見通し



■ 瀬戸・尾張旭地区

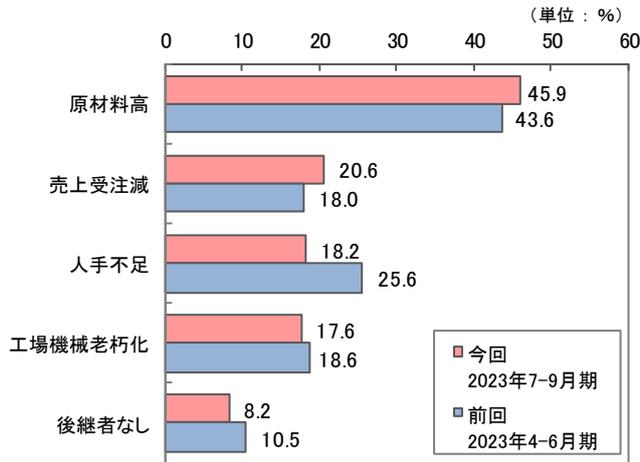
<経営上の問題点>

「原材料高」が45.9%と最も高く、「売上受注減(20.6%)」「人手不足(18.2%)」「工場機械老朽化(17.6%)」と続いた。前回調査と比較すると、「人手不足」との回答割合が減少する一方、「売上受注減」の回答割合が上昇したことから順位が逆転した。

<設備投資の動き>

「実施あり」は7.1%(前回比+2.4ポイント)と前回の実績を上回った。今後3か月間の見通しについて「実施予定あり」は7.6%(今回比+0.5ポイント)の予想となった。

<経営上の問題点>



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

<設備投資の動き>

	前回 2023年 4-6月期	今回 2023年 7-9月期	見通し 2023年 10-12月期
実施あり	4.7	7.1	7.6
土地	12.5	16.7	15.4
建物	12.5	16.7	23.1
機械の新設	62.5	58.3	53.8
機械の更改	12.5	0.0	15.4
その他	0.0	8.3	7.7
実施なし	95.3	92.9	92.4

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

■ 名古屋地区

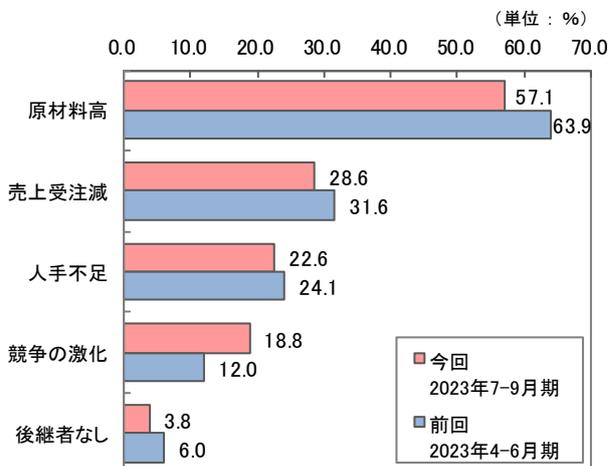
<経営上の問題点>

「原材料高」が57.1%と最も高く、「売上受注減(28.6%)」「人手不足(22.6%)」「競争の激化(18.8%)」と続いた。前回調査と同様、「原材料高」の回答割合の高さが続く一方、前回調査と比較すると、「競争の激化」の回答割合が上昇した。

<設備投資の動き>

「実施あり」は6.0%(前回比+2.2ポイント)と前回の実績を上回った。今後3か月間の見通しについて、「実施予定あり」は5.3%(今回比△0.7ポイント)の予想となった。

<経営上の問題点>



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

<設備投資の動き>

	前回 2023年 4-6月期	今回 2023年 7-9月期	見通し 2023年 10-12月期
実施あり	3.8	6.0	5.3
土地	0.0	25.0	0.0
建物	40.0	25.0	14.3
機械の新設	20.0	25.0	85.7
機械の更改	20.0	12.5	0.0
その他	20.0	50.0	0.0
実施なし	96.2	94.0	94.7

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

【特別調査】
中小企業の将来を見据えた事業承継について

M&A(第三者への事業譲渡)は、事業承継の選択肢として、あるいは企業規模拡大や事業多角化の手段などとして、中小企業にとっても身近な存在になりつつある。

そこで今回は、中小企業の将来を見据えた事業承継についてアンケートを行った。

<調査対象先> 当金庫取引先 303社

愛知県 719社 全国 13,352社(愛知県、全国は信金中央金庫の調査によるもの)

1. 後継者の決定状況

■当金庫全体

・後継者の決定状況について、経営者の年齢が上がるに従い「後継者はすでに決まっている」との回答割合は高くなるものの、70歳代以上においても回答割合は「43.6%」の水準に留まった。(20歳代、30歳代の回答割合は、母数が少ないことが影響している)

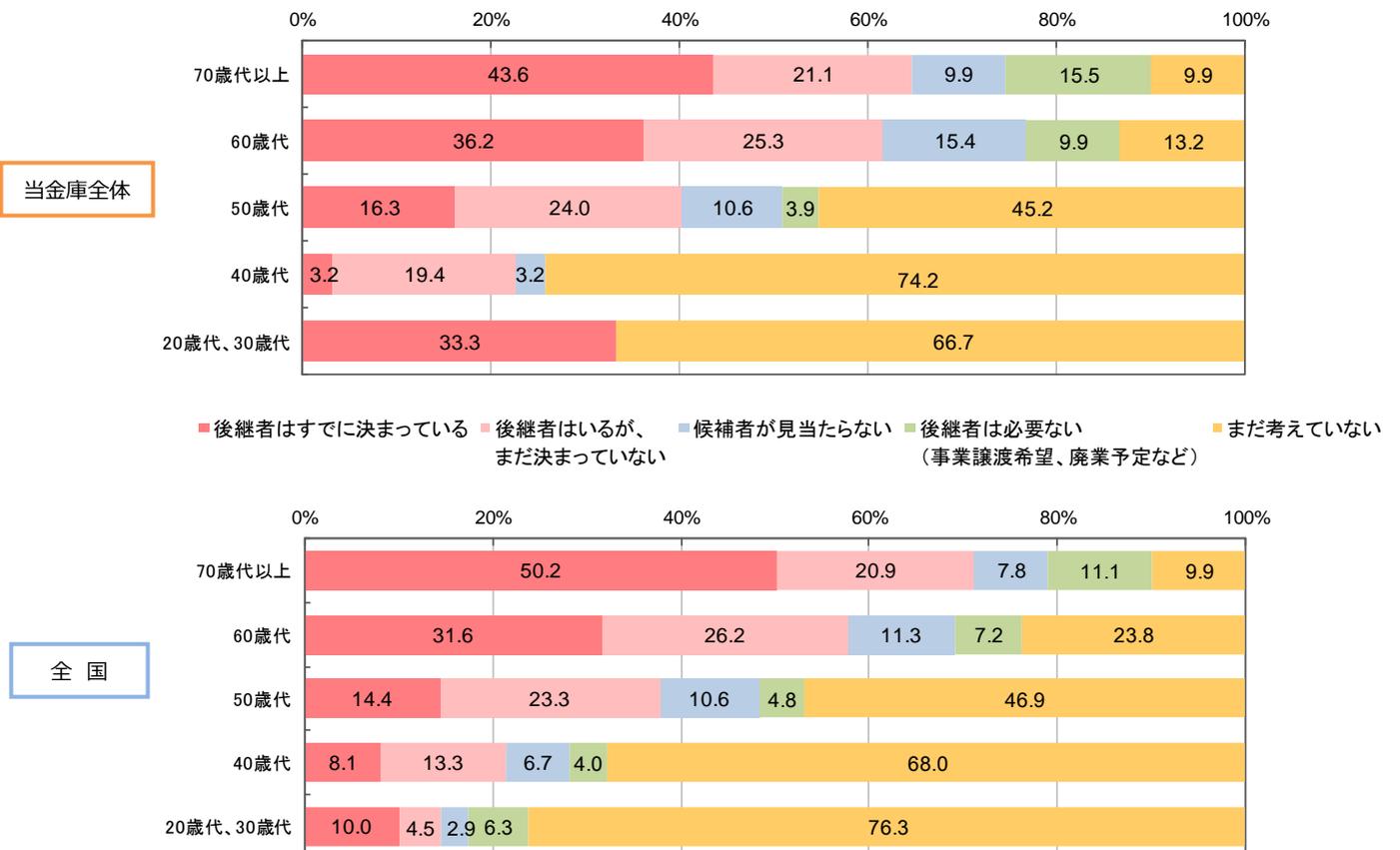
・また、50歳代以下は、「まだ考えていない」との回答が多く見られ、事業承継を考え始めるのは60歳代以降からが多いことが窺える。

なお、「候補者が見当たらない」は60歳代が最も回答割合が高く、一方で「後継者は必要ない(事業譲渡希望、廃業予定など)」との回答割合は50歳代以降、年齢が上がるに従い高くなる結果となった。

■全国

・後継者の決定状況について、50歳代以降では当金庫全体とほぼ同様の回答割合であったものの、40歳代以下において、「後継者は必要ない(事業譲渡希望、廃業予定など)」との回答も一定数見受けられた。

■後継者の決定状況



2. 現時点における事業承継の考え方

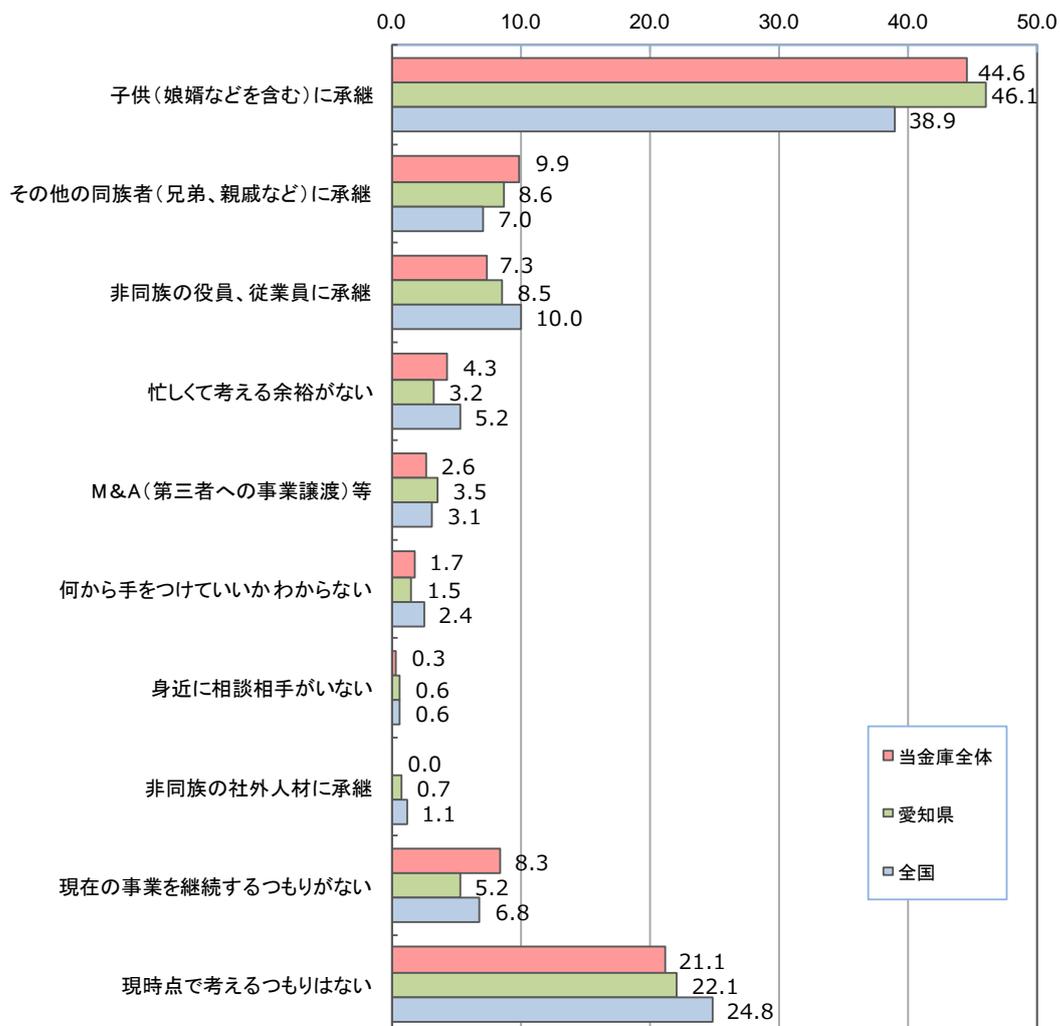
■当金庫全体

- ・現時点における事業承継の考え方について、「子供(娘婿などを含む)に承継」との回答割合が 44.6%と最も高く、「その他の同族者(兄弟、親戚など)に承継」が 9.9%と続き、子供と同族者(兄弟、親戚など)を合わせると回答割合は 54.5%に達した。一方、「非同族者(役員、従業員、社外人材)に承継」との回答割合は 7.3%に留まっており、同族者への承継の意向が根強いことが窺える結果となった。
- ・また、「忙しくて考える余裕がない」との回答割合は 4.3%、「何から手をつけていいかわからない」同 1.7%、「身近に相談相手がない」同 0.3%と、事業承継に関する支援を必要としている取引先も見受けられた。
- ・一方、「M&A(第三者への事業譲渡)等」との回答割合は 2.6%に留まった。

■愛知県・全国

- ・現時点における事業承継の考え方について、「子供(娘婿などを含む)に承継」との回答割合が愛知県 46.1%、全国 38.9%、「その他の同族者(兄弟、親戚など)に承継」が愛知県 8.6%、全国 7.0%であり、全国は、当金庫全体、愛知県と比較すると子供を含めた同族者(兄弟、親戚など)の回答割合が低い結果となった。

■現時点における事業承継の考え方 (単位%)



3. 事業承継を行う際の問題点(複数回答)

■当金庫全体

・事業承継を行う際の問題点について、「事業の将来性」との回答割合が 46.5%と最も高く、「取引先との信頼関係の維持」が 36.3%、「後継者の力量」が 30.0%と続いた。

事業承継にあたっては、「将来性(魅力)のある事業づくり」と「後継者の育成」が課題であることが窺える。

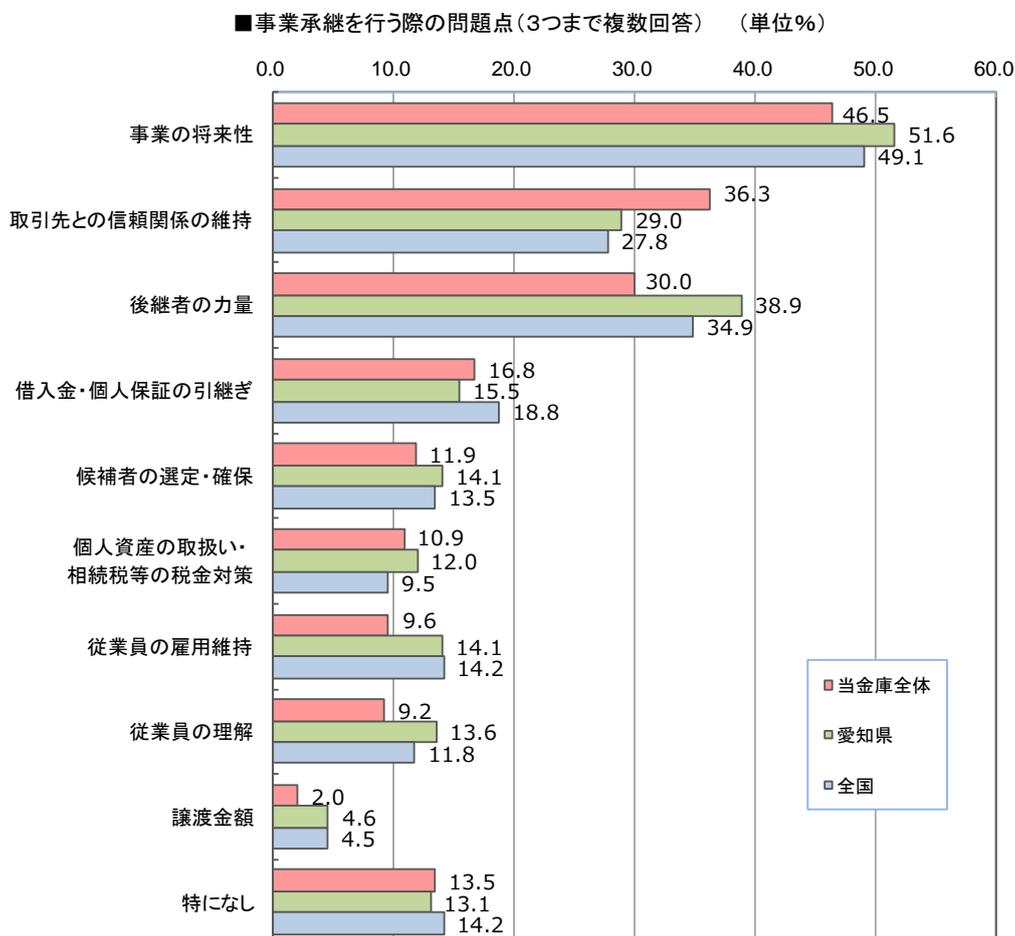
・次に、「借入金・個人保証の引継ぎ」との回答割合が 16.8%、「候補者の選定・確保」が 11.9%と続いた。

■愛知県・全国

・事業承継を行う際の問題点について、「事業の将来性」が愛知県 51.6%、全国 49.1%と、当金庫全体同様に最も高い回答割合となった。

・次に「後継者の力量」が愛知県 38.9%、全国 34.9%と続き、順位・回答割合ともに当金庫全体を上回る結果となった。

・当金庫全体と比較すると、「従業員の雇用維持」、「従業員の理解」の回答割合も高い傾向が見られた。



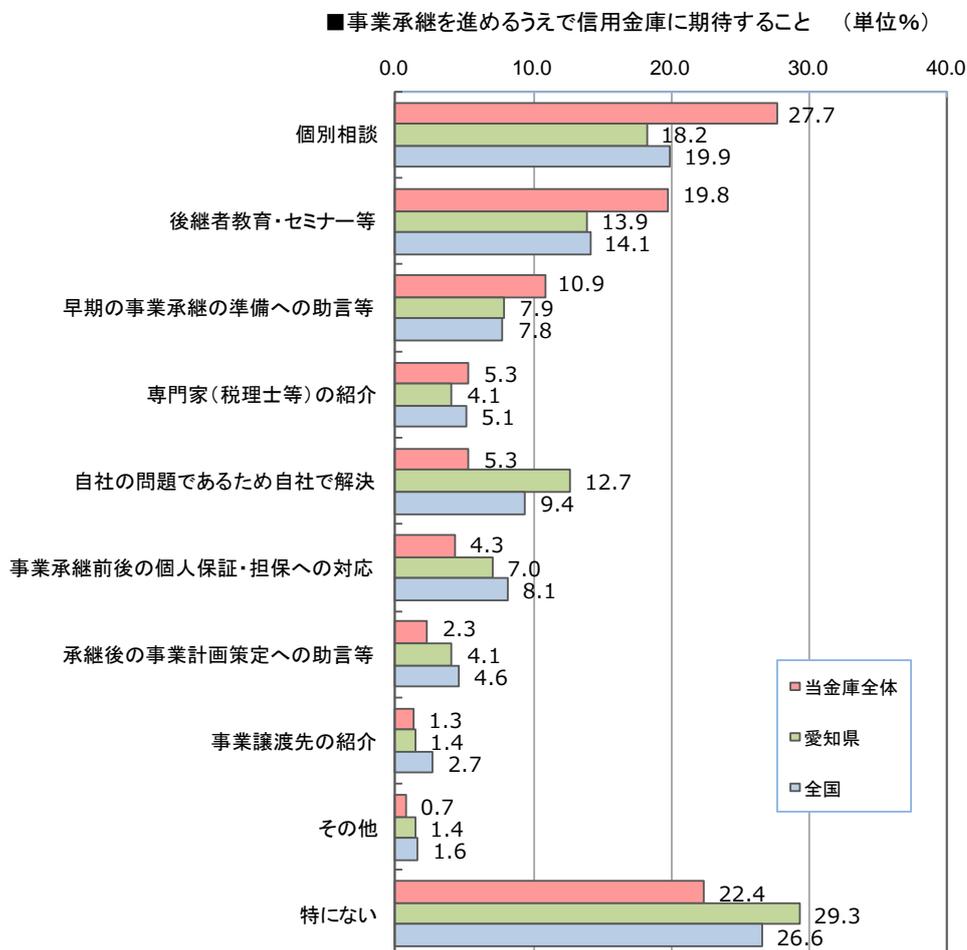
4. 事業承継を進めるうえで、信用金庫に期待すること

■当金庫全体

- ・事業承継を進めるうえで信用金庫に期待することについて、「個別相談(27.7%)」との回答割合が最も高く、「後継者教育・セミナー等(19.8%)」、「早期の事業承継の準備への助言等(10.9%)」と続いた。
- ・一方で、「特にない(22.4%)」、「自社の問題であるため自社で解決(5.3%)」との回答も一定数見受けられる結果となった。

■愛知県・全国

- ・事業承継を進めるうえで信用金庫に期待することについて、当金庫全体同様「個別相談(愛知県 18.2%、全国 19.9%)」の回答割合が最も高く、「後継者教育・セミナー等(愛知県 13.9%、全国 14.1%)」が続いたものの、当金庫全体と比較すると低い水準であった。
- ・また、当金庫全体と比較すると、「自社の問題であるため自社で解決(愛知県 12.7%、全国 9.4%)」、「特にない(愛知県 29.3%、全国 26.6%)」との回答割合も高く、事業承継については自前で進めていく意向が強いことが窺える結果となった。



5. M&A(第三者への事業譲渡)についての認識(複数回答)

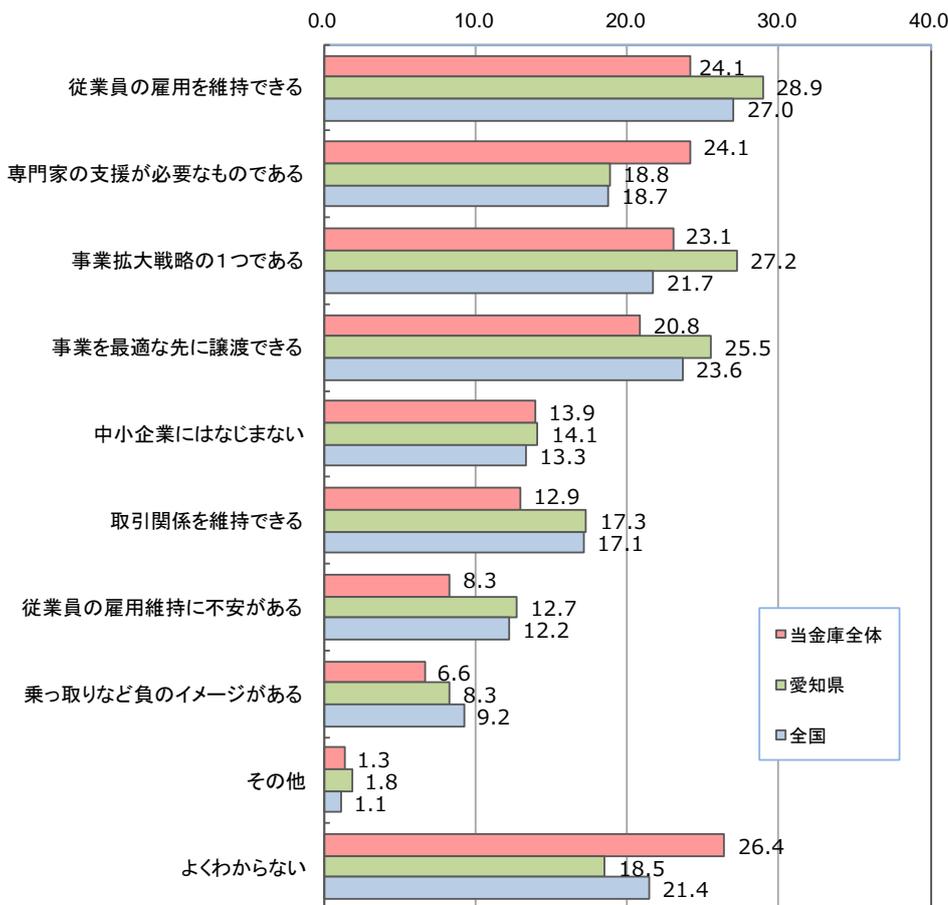
■当金庫全体

- ・M&A(第三者への事業譲渡)への認識について、「従業員の雇用を維持できる(24.1%)」、「事業拡大戦略の1つである(23.1%)」、「事業を最適な先に譲渡できる(20.8%)」と、好意的な項目の回答割合が総じて高い結果となった。
- ・一方で、「よくわからない」との回答割合が 26.4%と最も高く、また「専門家の支援が必要なものである(24.1%)」、「中小企業にはなじまない(13.9%)」、「従業員の雇用維持に不安がある(8.3%)」、「乗っ取りなど負のイメージがある(6.6%)」など、消極的な項目の回答割合も一定数あり、認識についてはばらつきが見られる結果となった。

■愛知県・全国

- ・M&A(第三者への事業譲渡)への認識について、「従業員の雇用を維持できる(愛知県 28.9%、全国 27.0%)」、「事業拡大戦略の1つである(愛知県 27.2%、全国 21.7%)」、「事業を最適な先に譲渡できる(愛知県 25.5%、全国 23.6%)」、「取引関係を維持できる(愛知県 17.3%、全国 17.1%)」と、好意的な項目の回答割合は、当金庫全体を上回る結果となった。
- ・一方、「よくわからない(愛知県 18.5%、全国 21.4%)」との回答割合は、当金庫全体と比較すると低い水準であった。

■中小企業におけるM&A(第三者への事業譲渡)についての認識(3つまで複数回答) (単位%)



企業景気動向調査 No.182

愛知県瀬戸市東横山町 119 番地の 1

<https://www.setoshin.co.jp>



総合企画部 企画広報グループ

2023 年 10 月発行